

令和6年度 こども園（保育園）関係者評価
園評価・評価委員最終評価シート
子育てセンターみなみしま

こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価

評価日時： 令和 7年 2月27日 9:30 ～ 11:00 （一時保育室）

【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 1名 地域委員 1名 保護者委員 2名

【園の教育・保育目標】

夢中になれる子 ～みんな大好き 遊ぶの大好き～

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した
こども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】

「いいとこ みーつけた」
昨年より、子ども達が安心してできる環境、自分で考えて行動できる環境を職員間で学び、実践してきました。更にその学びを深め、子ども達が安心して自己表現ができるよう、一人ひとりのありのままを受け止める、“ひとりひとりのいいとこ”を見つけ、認め、心地良い居場所がある、自信を持って様々な事に挑戦してほしい、そんな思いから、今年度も教育・保育のテーマを「いいとこみーつけた」として教育・保育を進めていきます。

【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価		評価委員最終評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由（評価委員から）
I. 目標の理解 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	3	グランドデザインを意識しながら、教育保育目標、指導計画を立案している。また、今年度からクラスだよりに載せ、保護者の方にも意識していただけるようにした。毎月のクラスカンファレンスでは、重点目標を意識した子どもの姿や情報を共有することができた。その反面、内容を十分に理解した上で、教育・保育に活かしているかという点では課題が残る。	3	去年の反省を活かし、クラスだよりに法人の教育保育理念や園の重点目標を記載することで、保護者を含め園全体に伝わっていると感じる。またカンファレンスを通して重点目標である「いいとこみーつけた」を職員が意識できるようカンファレンス資料に位置付け、子どもの姿を共有できている。保護者の意見もしっかりと活かされていることが伝わる。園として課題も把握されている、とのことであるため、今後への期待も込めて評価「4」に近い「3」とする。
II. 教育・保育の計画性と内容 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	3	昨年度から引き続き、話し合いの必要性を大切に取り組んできたが、職員間での報連相と、情報共有不足が起因しての保育の連続性が担保できず、単発的な活動になりがちだった。また、子どもの興味、関心、意欲に合せた活動を十分に展開することが難しかった。安全面では、開かれた園作りに対して、防犯対策等への課題もあげられた。	4	子どもたちが「こうしたい」「やってみよう」という思いを大切にしている。予測不能な社会なため、これから子どもに付きたい力を研修等を通して培ってほしい。防災対策については日々の訓練や命を守る為に職員がどう動くか、ということを職員間で周知することが大切である。防犯や防災に対する意識もとても素晴らしいと感じた。

Ⅲ. 子どもにとっては 1. その子らしさが認められる 2. ゆったりとした生活 3. 自然に触れて心ゆくまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る	3	散歩や、園庭遊び、行事等を通して、自然と異年齢での関わりが見られ、思いやりや、憧れの気持ちを育んでいる。子ども一人ひとりのありのままの姿を受け止められる関わりを大切にしたい研修を開催してきている。研修等で得た知識を活かせるよう、取り組んできているが、子どもの主体的な教育・保育活動の展開には課題が残る。コロナ禍を経て、地域との関わりを大切に取組んでいるが、まだまだ少ないと感じる。	4	2月に開催したリズム発表会はとても素晴らしかった。また、子どもの良さを見つけ出して教育・保育にあたっていることが良い。様々な経験を積み重ね、人に感謝される思いを体感すること、人の役に立てていると感じることは自己有用感の育成に繋がる。もっともっと良い環境にしたい、という思いが伝わる。評価「5」があれば「5」をつけたい。
Ⅳ. ファミリーにとっては 1. 気軽に相談できる 2. いつでも保育に参加できる 3. 必要な情報が得られる 4. 保育を通して地域に親しむ	4	安心してお子さんを預けられるよう、明るい挨拶、子どもの気持ちに寄り添った優しい関わりを心掛けている。また、保護者が保育に参加できるよう「保育参加」を設定し、園での子どもの姿や園運営を理解していただく機会としている。クラスの様子や行事等を玄関掲示やブログで知らせて情報共有を行い、子ども達の成長と一緒に喜び事が出来ていると感じる。	4	保育参加が保護者の悩みや情報共有する場となっている。懇談会の中でも保護者の横の繋がりを作ってもらえていると感じる。個別に相談できる場もあり、子育ての参考になっている。
Ⅴ. 地域にとっては 1. 誰でも親しく訪ねられる 2. 園の内容がよくわかる 3. 緊急の時頼りになる 4. 子育てに夢がもてるように	4	支援センターを通して、地域の方が気軽に訪れたり、相談できる場の提供が出来ている。また、園庭開放や園行事に参加することで園児との交流の機会がもてた。また、地域のボランティアの方の協力もあり、園児も様々な体験をさせていただいている。（田植え、芋堀り、たくあん・みそ作り等）園の様子や支援センターの情報は、子育て通信や、ブログ等で発信している。今後は保護者を巻き込んだボランティアの受け入れも考えていきたい。	4	自然や本物に触れる経験を多く取り入れてくれている。地域の中でできることを考え、地域の方に協力して頂ける環境がとても良い。ぜひ来年は保護者も巻き込んで、計画をしてほしい。今後に期待をしている。
Ⅵ. スタッフにとっては 1. 個性が生かされる 2. 快適な職場づくり 3. 生活や遊びの文化が伝えられる 4. 視野を広げて自ら学ぶ	3	公開保育や園見学を通して、他園の様子を知る事ができたり、研修に参加することで様々な学びが得られている。行事等を通して職員の特技を活かす機会はあったが、職員一人ひとりの良い所や得意分野を知り、学んだことを教育・保育に活かしていく仕組み作りに課題が残る。	4	保護者の声が生かされ、安心して預けられている。職員の苦手な部分をどのように活かしていこうか考えている部分がよい。職員で課題を見つけ、チームで教育・保育にあたっていると感じる。研修を行っていることでチームワークが良くなり、園長先生を中心に先生たちで頑張ろう、という気持ちが伝わる。今年度に入り、さらに園の職員の雰囲気明るくなった。